



前回に引き続き「生徒指導提要」よりのご紹介です。

今回は「子どもの行動の背景」「子どもへの気づき」についてです。また、私たちの「守秘義務」についても、どのように考えたらいいのかも示されていました。

1 子どもの行動の背景には① ～児童生徒の問題行動の心理環境的背景にあるもの①

○人間への基本的信頼の欠如

児童生徒が育つ過程で親を始めとする周囲の人間が児童生徒にとってどれだけ「よい」存在であるのかは児童生徒によって大きく異なる。周囲から大事に守られ、愛され、可愛がられて育てば、児童生徒は人間や自分を取り巻く環境を「よいもの」と知覚し、他者の自分への働きかけや言葉を信じ、喜び、自分からもほほえみや笑顔、言葉で相手に返すようになるだろう。こうした「人間のよさ」体験の積み重ねが他者に対する信頼感の基本となる。

反対に、寒さや飢えなどから守られず、暴力を受けたり放任されたりして育つならば、他者からの働きかけを警戒し、防衛的になり、心を閉ざしかちとなるだろう。言葉の発達や情緒の発達も遅れ、対人関係能力も育ちにくなる可能性がある。

「いくらこちらが一生懸命投げかけても指導が根付かない」「教員に心を開かない」「反抗的な態度を取る」「被害感が強い」といった児童生徒の中には、こうした「人間のよさ」の体験が欠如しているばかりか、児童虐待や家庭内での大人同士の暴力などによって「人間の恐ろしさ」を体験してきた児童生徒も少なくない。

「基本的信頼感が欠如している」と感じられる児童生徒に対しては、教員が、まずは自分だけでもこの子に「人間のよさ」を感じさせ体験させたい、と願って働きかけることからその児童生徒とのかかわりが始まる。

2 子どもの行動の背景には② ～児童生徒の問題行動の心理環境的背景にあるもの②

○心のエネルギーの枯渇

家庭や学校で安心して過ごせる、自分の気持ちをよく分かってもらえる、充実感を体験する、認められるといった体験が心のエネルギーの源となる。

愛される、愛する、大事にする、大事にされる、認める、認められるといった精神的充足が得られることで意欲や成長のエネルギーが湧いてくる。子どもは家庭でどれだけ心のエネルギーを満たされ学校にやって来るだろうか。学校でどれだけ心のエネルギーを補充されているだろうか。

様々な問題行動はこうした心のエネルギーの枯渇が原因となっていることが少なくない。「気になる行動」は「もっと私のことを気にしてほしい」、「手のかかる行動」は「もっとほくに手をかけてほしい」というメッセージでもある。

不安や放任などで心のエネルギーの枯渇している児童生徒に「がんばれ」「が

まんしなさい」などといっても行動には結びつかない。児童生徒は不安と戦い心のエネルギーを満たすことに精一杯で余力がないからである。

教員が「安心感を与える」、「楽しさや充実感を感じさせる」、「よく認め、ほめる」ことを通して児童生徒の心のエネルギーを充足させることが、指導を根付かせるために必要である。

3 子どもへの気づき ～不応問題に気づく

児童生徒と学校生活の様々な場面でかわることで授業場面だけでは分からない側面を知ることができます。授業のよう構造化された場面での行動と、休み時間や掃除の時間など比較的自由度の高い場面では、表れる行動が異なるからです。一人である時と仲間同士や集団にいる時も行動は異なるでしょう。教室と校庭など、場所によっても異なるかもしれません。

「何事も生じていないとき」に児童生徒をよく観察しかかわりを持っておくことで、いざ何かが生じたときに、状況の判断と働きかけが適切にできるようになるのです。

不応問題に早期に気づくためのポイント

○学業成績の変化

成績の急低下は「心が勉強から離れてきた」「心が勉強どころではない不安定な状態になっていること」のサイン

○言動の急変化

「急に反抗的になる」「つき合う友だちが変わる」「急に喋らなくなる」「遅刻・早退が多くなる」などの行動の急激な変化は、本人の中で心理的な大きな変化が生じていることに対応するもの

○態度、行動面の変化

顔色の優れなさ、表情のこわばり、行動の落ち着きのなさ、授業に集中できない、けがの頻発など態度や行動面に表れるサインにも注目

○身体に表れる変化

頻尿、頭痛、下痢、原因不明の熱など身体に表れるサインもある

○児童生徒の表現物

児童生徒の書いた作文、答案、描いた絵や作成した造形物などには、児童生徒が表現できなかつた心が反映されていることに留意

○その他

日常、他の教員や保護者とよい関係を築いておく

「気軽に話せる」「率直に伝えられる」「相談しやすい」関係が児童生徒についての重要な情報をもたらすことに留意

4 情報が閉じられてしまうと ～学校における守秘義務について

学校では一人の児童生徒に複数の教員がかかわります。それゆえ守秘義務を盾に教育的にかかわりの内容や児童生徒の情報が閉じられてしまうと、学校としての働きかけに矛盾や混乱が生じてしまい、結果的に児童生徒やその保護者を混乱に巻き込むことになりかねません。